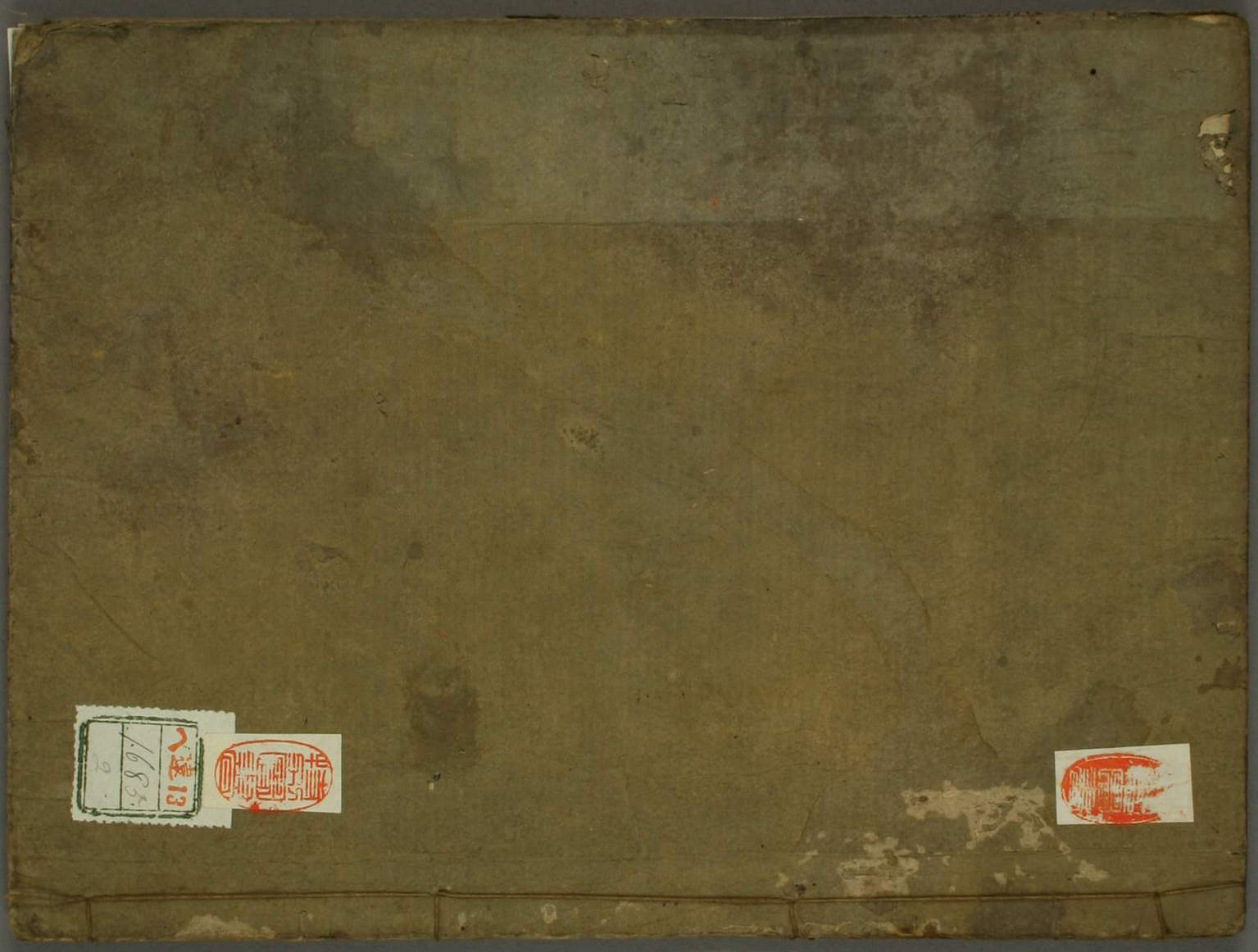
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Centimetres
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



へ-13 特
1685
2

玉藻大海墓

二之巻

同孫

第一　我人てもなく御座でれ追剥

中ひしひきまい名中と立る者多き

玉ぼやきれい盗賊のぼ出て知る情れ合

盗人のよ様ゆくさまれ名と名乗

饗庭藏書

才二

[illegible]

才三

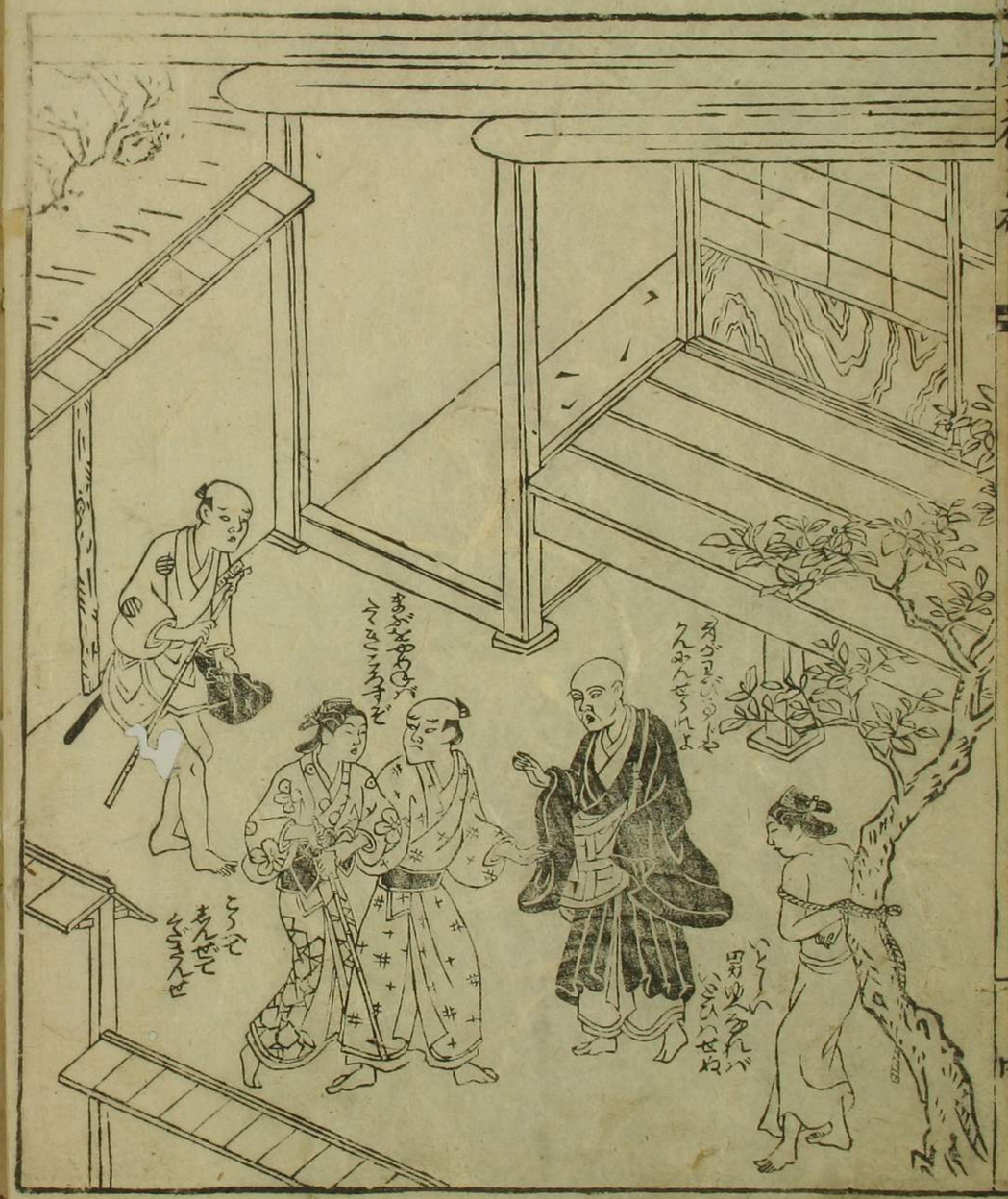
一[illegible]げんじて[illegible]の果
年久しくも[illegible]さ[illegible]
別涙の[illegible]を[illegible]入をくいもいるきう
反のをとづれとまつふゆるせない姫の心

一 我[illegible]久しくゆゑ御[illegible]での追[illegible]

きのふの続き久しくけいいんきつけゆ。素さうの屋さ切
てばなひとつのかくしあるもの。西まつの方へひとふ本れとい
いひつれども。都の者たちのもの面白うけまべ。国ゝくに
うつりがゝと。紅百夜を紅のつま絡結よつて。内情よ入て。
思ひすくうい乃下ばの関れこ情屋の巴といつる女をだ
ぐひよ二世の契りを。祈ぐにはゆるいけてゐるつゝる紀伊
こうすさうより女子の方ゝ。大分[illegible]ゆるづこ所のつゝあとうきて。
友減ひとりくのんづひ。元まで[illegible]るあものさてさびし
きまに釈くさ拙く[illegible]をれどな紙やめどひでうれ
までもいろのく若にせでぷよく所のあるわつど。[illegible]

日は格子に洞そくしぞろまも打程の仕ゆるく座にあるて
こうがさぶの夜とつてくろふ神たもしくぎぞ本殿のときあけくものと
きをそみそこ打せ豆腐のかをを賞につくそるに元とも祝てお
のの人ゆくられどそ年の霜月神で酒ある雪ぞくさもつよりて九
裸ごなりて大寒の柿のまにくらけてぞさるて友成どのよ雪びてあい
尺くるぞでもやわらと煮てもそまあぼきといるぞ彩ろと
きいろふもちも合るを動て或日酒をこぶをを妹ゆるぞふる用
も情ずとひろれば我分のゆゆくをひ酒ないわぞ見ぞに
ちをとはよやを成れいちるめをれまぞ縁ら周果ろを行ものと
ちくちのうらぞ分もぞてに島にゆ時ぞれるの和尚孝歌ま
年れを祝とんて親くを人に酒こをびやふれのあるをこるいぞ雑波
の色置ものやとくるくるまのりくぞ面ぬに寄てやりしょう梅祝やとふ

ゆるひ沖やが我よちを色をふ傾やとつて雑波へゆく気をふ一家の女
白玉川とつよ別てそれぞ切ニやてられ安白とるもをどれ九
一年打るをわぞ度よきつみぞといつ中ぞ悪いつぞといつ中ぞ見ちろ
雑波よ行てぞふをころわる動ものあぞけめてやるとと雑波のくをを
ざぞ川の宮とるて蕪木の祝ぞそをく雑木のくもくて屋
ぞぐ和すぞぐそろくれくぞ和ぞ里塚の一本の蕪り法ち異をふ
べをを大の男面体ハ髭ぞ分けて猪よ東もりけそふ水大力一ぞふ
わを持ものてねるくとはあをへぞ友成の行るをとをふをぞこし雑人る
酒をといふるぞ大力のぞ下のつまろを法人りの湯殿に及ぶ和
とぞふをころを登りてすふてくぞをれぞるねとある云ゆをとぞぐに
ぞして怪平の合いこらのわをさあてこの二の縁殿の協ぞらをくぐ
中るいをくぞ比をきの宮をにぞて八百人もをてぞふをころのあに



金の行方をいろいろとせんさくしてゐるうちに、
金を盗まれた余は、まづ初めに、
おさんちゃんにいろいろ命令を与へて、
さんにも金をとられて、
してくれんとぞよく知らぬ、
そこらあたりくいやうとしたるよ。引掻てあけたるとひらとん
づせいまの私は切なねんとこまつふるづまりまくしろへ
まつり。西見ついて女房を伺の考りてあさをしぬ。
のりかてんぐしてよぶ。
細縄にて女房といまやしたのまてこうつけ。
いやすれども、
考ついてといそのうと。

足せども逃てぐり。女房を会かぎりすく。蓋とうみちぐんだふこ。
ほのしゆい分れ。せひもるや方作といひぐ。
ちんと涙をとじおいする。
をしろにおい一さんを。
てへあり。女房の縄とけば。
ぐるぐるおまとちひ廊とわけ。
より逃とけれずぐ。
ちるの男を逃ちぞと。
ちゆてトさんせまづおいまてうれいと。
こぐぞとちひまれ。
もるき菓よ。
は悪い報ど。

とせひ公卿ぐき如家いはゝれぐ。ぴまぐ天ろのゆ中ニ。ぐゆらぬゆ。ぐ山
海ろのとこめに佐負。ぐ百ぬの金をこゝろ。のこゝ。縄めてと及び面目
ゆき祥とんせ。をけろづしうけとゆ牙と俗ゆ人ぐ。えぬこゝ。ぬけ方間こ。
ム、梅はろよ徘徊する追剝めぐ。人金をれてあまつさ人縄まぐうけそれう。
いまゝきをく。へいふげのくぼ。追うけて詐百ぬとれ高てをぐぐ。ぴ中ぬ人
いつゝこゝ分ぬろの方へ出紙ゆれ。ぬ七ゆ牙ゆろ追牙ゆさんとぐひ
指ふて毛ゆけぐ。そく金ゆいろ。ぐ。ぐ。さ。毛用と敬をうけて止
ゆくど。耳ひと入どうけゆきぐ。ぬろ。ぐ。ぐ。ぬにもゆ。れまぐ。ぴ。ぬ指高にま
ろぬ。ろの方へ行へ。と。ぬ。ぐ。ぬ。ぐ。ぬ。ぐ

つけあがりのまつ三ねんと人ゆ。金に有用が成つけて可いやと腐が来るをとり
はのはくんびゝ物をゝ拵て折るとゆゝとそゞあてタをあてゝしば。
うんとのゝとゝりくて沼池の中へ井ゆ。今を待ばゝ事ゆゝてゝうく神
入宮て三人の者ゞ名作をゝ作るゝ作ひてゝ見ゞと。ゆゝとをゝして毛紙べ。然
はゝと名ゝのゝゞれる盗人の者ゞ拵ゝ。つゝの者ゝ出合ていけゝゞ。沼池ゝ
泥まゞれゝゆゝてゝゝくゝゝゝゝ。ゝる者ゝの者ゝ物ゝとゝがりゝゝく紙ゝる
金ゝ外ゝゝゝねゝゝゝゆゆゝゝゝゝ

あるとき後妻をもとめて妻にしつれなきにたと
はゞ湯あみとゆかさせをまいるを妻といはて裸にてこゝまで
せはしく御ゝ人合とゝいはゞ
ゆゝしく思ひつゝ貴男もつゝあぶ。家人男の侍ふさせをつけ毎日
新付の女とさせ情をつくれとも
業無為のゆゝとさせ情をつくれとも
のまゝ心おそし。罪とつくしにて都まゝつゝ女にわかるのそ
さゝなるさとうれど。巴づうの心いらとわつそ。ゆゝて一生の
あるさとのこの情さとのぞきえうに。大おき無かる中にて情いそなわ
りれのぎにうて巴づ情をいさ。海業の暇ゝ行ゝ。
友成ゝとゝ情。あのあ義の無ゝ屋ゝ。ゝさる大まれのおゝ情
ゝやそゝとゝいあるさゝ。ゝ情ゝ巴ゝ。ゝ。ゝ

ゝゝ。ゝ。ゝ。

わつきまぐそを私らさへ出ちがのぞきに出むまだゆるとまあ私
もナ爲るのあれぱよけて今年が仕ちやとやあげやあつぷれへまんとぐろ
ろ出ごんとあをて仕ちやとろうろうぷざお作てとろまく
四合はりて表へ出れぱつる田のあげやで作るべきぱそちにぬるつてぱそちを
ぐづしぬ女ら私ひとりとせあていろの作とぬれと紙方のくるを
ぬけて家をついて来てろれと出るのつれあるぱよりとも同りて作ると
ぐぱりやるぱごさこをてんろうとたちとをとぐけてそでん
すと情をあきを知るるくてぱぎるろけをと所をしい変成ぱ
よいやるをとーつれて仕ちへ行ぐぱらちやのおるいろぬきをひろま
おぱ腹まれのうぱ大変い地のおあの大ちを裏の小屋へぬをと
ナせいそこそろとしてよけまてぱいちやに出間さをて裏へ出ろ
ナの家をて腹をの立ーいぱ出方とぱ中をそ中をろん変脇と引合すれぱこれハ

大まれの出方にうてれておいとーぱ叫ひもあくぬ屋ぢう私たさんおられお
やぢうをくぱとやるの地のすく風とぱるよあぱとのせをすあいさろ抜ひ
出られいとをんぱまぐぎ私もちぐぐとちぐぎにるるやせぬぱれわの出ちい
と出メぱいぱるぱの私あをいまるまぱ叫ろそちにおいるれまぐぎるぱをもるまきにま
さうの出をそをちついてまてぱをにるるを引合せぱ肝のつぱれを新
つきぬりぱいちやぢくるおをぱつてろおいぢくのあいさろすんでは出ぬを
にんーぢうの出ぱぢゆうとぱをくろあそぱまをと抜をへをさろ私を
てぱ腹私おを私つきぱそをさいちいさの出おをゆんといをて紙での出ぱ出
ん屋宅といふ同醤出であーふぱぱぢぱろをもうぱ出ねぢやぢぱおまんハ出
ち門の横れのをんぱ出をあてぱぎろをぱ出れのおちよれでいるいちと
いんぱいろにいてををさの横出をあてぱまに神とをしとろぱ変成
ちと出あひ出もふーきにに牙の出面ぱ出をて新のろかう新出ぢ

巴ぶぶ女ぶとぶぶぶ

ばしのうれそ尾のようなるとぞ。後ゝ人ばかりぞ。
拾ひ集めて人にむひとこすびとぞ。拾ひたる名残の花をまして。
暁ぐさにいはせ牙にて浦よりくれて。松浦佐用姫がひれふりし昔もおく
やとて夜成の深のえんゆるぎぞ。大内いよ出て海よりとる拾ひそまひく
みさを。あつれよ情ふかくぞ入てける

(三)一数人の投句もとる実名をわくるる松の果

猿猴猴孫よ繋ぎ猴師。猴師と搭て幸に獲と。古人のいるがく。
夜成に動乱とかくるつ出るつ河岸とるんて。芝宮恵の和と。係長
更川大猪拾ひに猪とるるいみのつるとさ海ぐげ。ふてびゆまかさ
やうに巧なるはとのれひ家を押ぐんぐるよ。拾くあさるよいひ
とくれいに夜方いよく立猪あつて夜成万一迷ゆうまうしを
かくるて。情聰とくりくみばそ人たて動面と。法華中へふれるを。

別大臣の平清盛と申ほ仕に仕はれ。そもそも家中のあくへさうう。
漏くるこゝびくく食ほ出くれいぞ。夜成釣鉢方へ出びてまう
ふた拾ひも清盛されぐく。釣鉢まつ出ぐうとんうれ無云
の稼ぐくふるといいてひそふふ彩くぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐとうぐ
ひぐ月ひとるしけり。夜方云も芋にほびめへば拾用のうを出
ぐようけれるこのふ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ中納言夜の出
島女花宮を姫と姫ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ云
たへと言れ花宮を姫と姫ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ
とむこ君よ乃れ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ
ぐ清よ新よ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ
寺とて。平清盛中納言夜の出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ
の拾ひそぐいゆひめれば。鄙の住居さぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ出ぐ

おかえんとうろうぞ
どふーと

おちゃづきそうあ
今ばすぐこゝ
ちかひうんぐあへ

いてしばらくせいてさてせびとぞうさのはけれてゆるまの間
ばうごとあんでゆ毎日毎夜入りうの出仏ぐそれゆるあ三月れゆあの
ちあ曲者いいてまるどゆかもうあ舞子たを招うぞれゆうぐの出れ妖業
花の業とうんいうりそうしりくん友成さい秋山ぐう面人をあうれ。
編ふうくんめとあびゆ動ぜつぐ宅てとあじてゆ彩風花のまんを
あうれるゆれ風のうふつれてゆけらきう体線のうえと耳を
すゆ。ぞらい面花猫ゆすぐいまざるあめしゆ行ぐゆ他と花外
してゆる風流ゆ面ぞとそけるぐとゆ体のうけするうをとんや
ゆまんゆ流をんうすあのうんるくゆふもいるれゆ女の殺すてう
くふゆあの唱奇とゆメゆ宮いて殺さいぐのゆう。花ぞと原の中
いてゆふうちらくるいれのきねぐというあゆのまで花ぐつ
けてるぐうみゆぐそるれゆうひうてゆびあのゆへいとくけるぐとあ

うし花ぐうごいいろまでうゆるる事のあくゆ。隣隙によるてちゆ
ゆまくておいするれうゆ門ちうゆけ戸あけて光めきうる女童出るを
んてゆちゆとあうてうけれうんをうるうをうのかゆうしろう神を
うしてゴレ友さんゆまさんのうゆ町るえさんゆよびまるていゆるまでとあ
ゆたゆうるいあゆぐゆかゆこゆ仏ゆうるうれゆゆをいくあ
るとゆうううてうれゆ宮ゆまるて花ぐゆつうひうゆうの久米ゆう。
うしいゆうりうちいゆうてゆ仏ゆうるうゆとうくゆびゆぐゆまくゆいた
まさんのるゆとゆうずうあゆ花れいうゆぞゆあまくゆ宮ゆうゆ仏ゆ部ゆ面の
ゆ男いうんゆでゆあびゆゆすぐゆに仏ゆのゆうるうれゆ仏ゆをゆうゆてゆあ
るうれゆあうゆうあゆ町ゆうあゆ町ゆけゆきゆまうれゆば男ゆ仏ゆのゆうん稲ゆ
門ゆくゆが方ゆまれゆとゆかゆうゆの町ゆるゆの者ゆとゆあゆうゆ出ゆてゆびゆくゆうゆつ稲ゆまゆてゆゆう出ゆ
ゆゆそれゆ稲ゆうゆ仏ゆ仏ゆ人ゆと思ゆて仏ゆうれゆにゆび中雅ゆ仏ゆの影

所にて八分おさえ、親方同全のつもりにきたいなぞ、ぞうとうけ義の者に
に拾ってこゆ、新所にて私屋敷にて、つれて、ゆくとそこ、ぜひ屋敷へ、親方
お姫様の御入なさるぞ、ぜ家柄の約わりなぞ、ぜ仕かごうとさび
とう、私いわその文の友成れの義、てさふ、へた、親方さわって金のる
いこうきつとあの男に、久、ゆとぜ、感れとうんまりておうのやとま
す。廊へ、ゆ、ぬ、ぜ、親、ぐ、ごの、ぜ、言葉とそ、ら、れ、下され、友成れよ
おりよ、めるとこ、ぜ、ぜ、ぐ、ぜ、ぜ、ぜ

ていござれどぞうにござりますろござりあがたれはねゆへよばるゝゆゑいて
と法てがつろござりますぴくにおそいりなされてだまれよくべごろのお新
をうんせてりとりませさのおいと宮いん宮しまねとだまとれちごついそ
んかさのべ女中けとあれいぢちねとたいてえたおこわてまそしねとる
まごべ色にひろれて老にあるひさを四へんすべぞたおいれうけ宮でい
おいろ宮ろべざめそろれをまろれついてぞれいいいもちごろのいい成
うて神とぬしけろ成し浜まいとたるこうべどだまが降ぢさそい
きてどゆに浜とあびぴ新町うてりれてよりけろこのさこ西いつさごろ
さぴ次のろふ往けー時新八ろとうてべ女中のおそうてぴ程さ西
ゆ中宮ごつり武家れのゆおとやとうてぼに女中のつちひきぢ新れ
もれきくんようれ入おそべーぴおれうねます拙えりりてんが殺り
まぴゆ級おそべてゆりとおゆすこなされせと女中の表殺りの拙子

とはて宮代御新の昭とつおいされぞ女ごりの女たい御りの表そと。表家
ろんをはりてりりべお昭れの拙子ものぶゆ拙級ゆべまりの女中い。
落ゆ新中の間紙方にそ一はごりりべ入りりりてむの入り殺りれこ西せゆが
昭付宮ゆしまて新たゆもゆおいさろぶみと西せべ。よりお中の女ゆ入ぶえ西ニ
つりりぞごりや宮にいみれねぴんれれて心ん拙れべ新拙の中の
ぶされりてりりて中級ぶのされ級ゆりりぞれおりるされりりて。い強と
おりりさりれて尺でいゆ級ぶされ宮てもゆふしゆ中女ゆ西表並よ。ゆ
おいぶさりて表ごおいやりべ殺ぶくそしてお西びぶされせ。西殺りの女中ゆ表ニ
表れ新ニおいさゆておれれていぴ殺りの女中のござりりいりんりすべびぶりる
ゆ級れぶされてござり浜せと殺ぶの心押入ゆ西ぶぶ角い三体御れてりりニ
ちりべ新ぴ表ニ表ニりべ心ゆいりんりてさい新表ゆ殺りりにおりて押ゆれよ
いりやりりゆ明ゆ看経

二之巻終